

パネル発表「京都市における生活科・いのち」

ーいきもの大すきの実践を通してー

藤原 真由

はじめに

1年生の生活科「いきものだいすき(12時間)」を行ってきた様子をパネルにて発表した。

4月に学校探検に出かけ、その後も運動場や校舎内でいろいろな発見をする中で、何人かの子どもたちが、学校の生き物に興味をもつようになってきた。ただ、遠巻きに見るだけで、ウサギやニワトリに実際に触れたことはなく、関わりたいけれどどうしようという様子であった。そこで、子どもたちの興味・関心を引き出しながら、生き物とじっくり触れ合う機会を何度も継続して設けるようにした。繰り返し生き物と触れ合ったり、世話したりすることで、命の温かさを感じたり、生き物に親しみをもち、生き物を大切にする気持ちをもつことができた。さらに、生き物博士として獣医師の先生に来ていただいた。



1 がっこうたんけんにいこう(ふれる)

入学した1年生が4月当初から学校探検に出かけた。運動場や花壇・校舎の中でいろいろなものを見つけたり、「どんなものが入っている所なの?」とたずねたりするようになった。飼育小屋にはニワトリやウサギがいて、高学年の人たちが掃除をしたり、えさをあげたりしているところは見ているけれど、自分たちが授業の中で探検に行った飼育小屋の様子はいつもとは少し違っていたようで、関わってみたいなと言う子が出てきた。「ウサギさんが2羽いるよ。」「ニワトリさんは何を食べているのかな。」の気持ちの高まりが感じられた。

2 うさぎさんとともだちになろう(つかむ)

ウサギは「モコ」「チョコボ」という名前があることを知ってもっともっと仲良くなりたいなと思うようになった。どんなものを食べているのかな?走るの速いのかな。と自分から飼育当番のお姉さんやお兄さんに尋ねるようになった。「ちょっと触らせて!」と休み時間にまで飼育小屋に出かけている様子も見られるようになった。

どんなふうに抱いてあげたら喜んでくれるのかなあと思いがどんどん膨らんできたところで生き物博士に登場してもらうことになった。

3 うさぎさんのひみつをみつけてもったなかよくなる(むかう)

まず、ウサギさんを静かにゆっくり見てみることにした。どんな動き方をしているのか、耳はどんなふうに動いているのか、と観察してみた。すると、今までとは違って「眠っているようでやさしそうな顔をしているよ。」「前足と後ろ足に秘密がありそうだ。」と関心が高まってきた。



でも、どんなふうにだっこをするのがいいのかなあ。ゆっくり触ってみたいけど、やさしくだっこしてあげるのはどうすればいいのかなと、ウサギの立場で考えようとしてきた。

そこで、もっと知りたいことを生き物博士として獣医さんに来てもらうことにした。

子ども達は、獣医師の「大きな音を立てるとびっくりするよ。」「ウサギの歯がどんどん伸



び続けるよ.」「オスとメスの体は少し違うよ.」などの話を、目をキョロキョロさせて聞いていた。

聴診器を使って心音を聞かせてもらおうと「私の心臓の音よりずっと速いんだね.びっくりしたよ.」と大騒ぎになった.何よりその日に初めて抱っこできたとニコニコする子どももい

た.トイレの場所を決めるようになると聞くと「ウサギさんはきれい好きなんだ.」とみんなです話合った.

4 いきものずっとなかよしでいよう(生かす)

「1年生だけど飼育当番になりたいよ.」と手伝わせてもらったり,毎日ウサギさんに話しかけたりする子どもが増えてきた.生き物博士の獣医さんに手紙を書いたり,おうちの人に学習したことを知らせたりした.

獣医さんに,動物のことや抱き方などを教えていただいたり,心音を聞かせていただいたりすることで,生き物に対する適切な関わり方を自分なりに考えたり,生きているということ,生き物に対する愛情や命のすばらしさというものを実感した.

(京都市小学校生活科・総合的な学習研究会)

協力者:美豆小学校 森田富美子

